

全体としては落ち込んだ 2020 年からブイ字回復し、新聞記事にもありました通り、全国の花き卸売市場の花全体の取扱高はコロナ前の 2019 年を超え、百合の平均単価も前年比“鉄砲百合+6%”、“その他ユリ+7%”と伸びています。

今年、2022 年は 9 月後半までの青い太い線です！ 第 6 波のピークだった 2 月はやや下げたものの、全般に過去 4 年の平均を大きく上回る好調を示しています。

2021 年の 1 月～9 月までの単純平均と今年を比較すると、218→238 と、+9%の伸びを示していますので、皆様の販売実績も同様の傾向ではないでしょうか。

## ② 球根流通事情と相場のポイント

◇2022 年の 4 月(後半)～6 月(前半)の切花単価は高水準だった。

3 月 17 日付情勢報告の「②オランダ産新球の入荷状況について」でもご紹介の通り、オランダ産新球は、近年入荷時期が遅くなっており(弊社は平年並みでしたが)一部、21 年オランダ産の 2 月入荷が 3 月にずれ込むなど作付け計画に影響が出たと聞いています。輸入環境は依然タイトで、来年もこの傾向は続くと予想されるため、4-5 月切花出荷をオランダ産新球で担う作型はやや不確実になっています。

◇2021 年オランダ産の輸入球数は、大きく減少した 2020 年産と同程度。

9 月前半(第 3 週)までの植物防疫統計によると、2021 年オランダ産の輸入球数は約 7300 万球で、コロナの影響で大きく減少した 2020 年産(約 7400 万)の 98.7%となっています。

◇2022 年南半球産の輸入球数は、9 月 7 日付情勢報告でご紹介の通り、前年より△170 万球(△8.5%)の大幅減少となります。

◇世界の(WTI)原油先物相場は一時 1 バレル=130 ドルまで高騰し、オイルショックのような状態となり、LNG を初めとするエネルギー価格、その他多くの原材料価格が上昇しました。

オランダでは 100Ha 単位の巨大なトマト生産会社が、冬作を控える方針(9 割減)など、大きな影響が出ています。アメリカ、ヨーロッパを中心に、経済過熱でインフレが深刻な問題になっており、スタグフレーション(物価高による景気減速)懸念から、ダウが 3 万ドルを切るなど、9 月下旬から状況が変わってきています。

原油相場は、OPEC プラスの減産が示されている中で、1 バレル=70 ドル台へと 6 月以降下落傾向が続いており、昨年末頃の水準に戻っています。

中国のロックダウンによる経済活動の低下(住宅価格や不動産販売も減少が続く)から今年の世界石油需要見通しが下方修正され、国際エネルギー機関(IEA)の予